2015年 活断層フォトコンテスト

優秀賞（2作品）

「ある夕暮れのFossa Magna」糸魚川静岡構造線活断層系
渡辺満久・東京都

「神の城壁崩壊」神城地震断層
渡辺満久・東京都

入賞（4作品）

「活断層がつくる絶景」2枚組写真，糸魚川静岡構造線活断層系
吉岡由布子・茨城県

「撓曲に映える雪形たち」神城地震断層
宇根　寛・千葉県

「飯森の地震断層」神代地震断層
渡辺満久・東京都

「水面に映える山々と地震断層」神城地震断層
石村大輔・宮城県

特別賞(1作品)

「白馬村神城における神城地震断層の出現」神城地震断層
渡辺満久・東京都

日本活断層学会 主催
普及教育委員会 活断層百選専門委員会 実施

総　評
審査委員長　写真家 白尾元理氏

今年の応募総数は29点と昨年の66点に比べて少なく、作品のレベルも突出したものがなく、残念でした。前回までは年ごとに海外の活断層や海岸隆起地形を応募対象に加え，古い作品の発掘も目指してきましたが、今回は新たな応募対象を加えなかったことが、応募総数が少なかった原因かもしれません。

その中で多くの作品が寄せられたのは2014年11月22日に発生した長野県神城断層地震（M6.7）の地表地震断層でした。国内では2011年4月11日福島県いわき市内陸部で発生した地表地震断層以来のものとなります。ポールを使って撮影した作品、遠くの尾根から撮影した作品、直後の作品、半年後の作品などのバラエティが見られました。

このようなフォトコンテストを日本活断層学会が主催する意味は、埋もれがちな活断層の関連写真を1個所にまとめ、多くの人にアクセスできる場を提供することにもあると思います。日本では活断層を対象に毎年少なからずのトレンチが掘られ、また地震による隆起海岸地形は多数あるのではないでしょうか。最近はドローンの進歩も凄まじく、いままで手の届かなかった対象も撮影可能になってきました。撮るべき対象は少なくありません。来年こそ、皆様の積極的な応募に期待します。

優秀賞

「ある夕暮れのFossa Magna」糸魚川静岡構造線活断層系

渡辺満久・東京都

撮影場所：長野県岡谷市　東経：138°　01′41″北緯：36°05′33″

作品説明：長野県岡谷市と塩尻市との境界付近、旧中仙道沿いの展望台より、南南東方向を望んだ。岡谷市街地の向こう側に諏訪湖、右手に南アルプス、左手に八ヶ岳が見える。諏訪湖の東西両縁に活断層があるといわれているが、撮影者は、主断層は手前の谷から諏訪湖中央部を通過して南南東の甲府盆地周辺に至ると考えている。遠方の中央やや右手には、富士山も見えている。

講評：諏訪湖付近は、フォッサ・マグナの西縁、糸魚川−静岡線の通過点に当たり、多数の活断層がある場所で、この作品からも諏訪湖の両岸を境する断層を見ることができます。その向こう側には残照に染められた八ヶ岳、富士山、南アルプスが見え、清々しい作品となっています。上下を二分する水平線、逆三角形の中に収まった街並み、近景の樹木の黒みなど構図や露出も秀逸です。

優秀賞

「神の城壁崩壊」糸魚川静岡構造線活断層系

渡辺満久・東京都

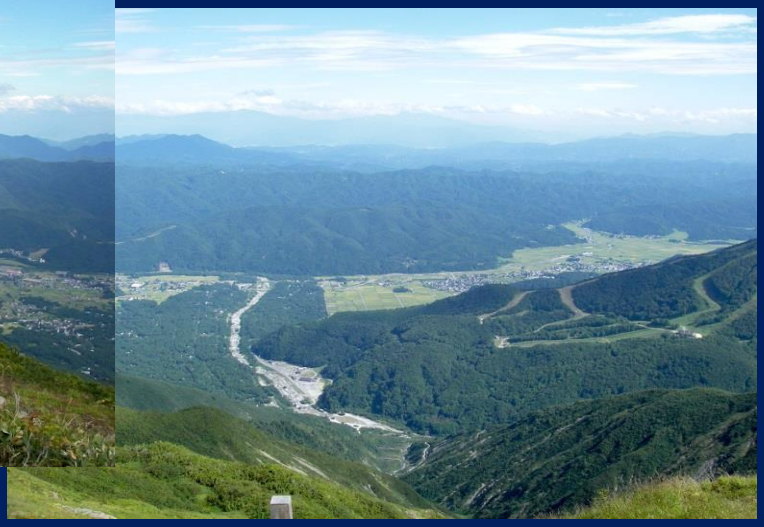
撮影場所：長野県北安曇郡白馬村　東経：137°52′16″　北緯：36°41′59″

作品説明：2015年11月22日に、糸魚川静岡構造線活断層系・神城断層に沿って鉛直方向に最大で約1 m、左横ずれ約1 mの断層変位が現れ、M6.7の長野県北部の地震（長野県神城断層地震）が発生した。本写真は、白馬村大出において出現した地表地震断層を、高さ約5 mのハイポール・カメラで撮影したものである。既存の低断層崖に沿って新たな地表変位が現れたが、畑の地割れの様子から、幅20 m程度にわたって撓曲したことがわかる。ここでは、横ずれ変位は不明瞭である。

講評：この作品は神城断層の地表断層を、ポールを使って５ｍの高さから撮影したものです。カメラをポールの先端に付け、Wi-Fiを使って手元のスマートフォンで構図を確認しながら撮影したそうです。ドローンを使っても同様な写真が撮影できますが、風の影響や費用がかかるなどの点で、ポールによる撮影の方が長所もあります。見下ろす角度が良いので、断層の走行や地表に発生したクラックなどがよくかります。

入賞

「活断層がつくる絶景」 2枚組写真
糸魚川静岡構造線活断層系　神城断層
吉岡由布子・茨城県



撮影場所：長野県北安曇郡白馬村北城八方尾根付近

作品説明：白馬村八方尾根から眺めた糸魚川ー静岡構造線活断層系の神城断層。2014年11月22日の長野県北部の地震で地表に地震断層が現れた範囲がほぼ一望できる。手前の山麓から断層に向かって松川と平川の扇状地が盆地を埋めているが、その南（下の写真の右端）には平坦な低地が広がっている。被害が大きかった堀之内地区や三日市場地区は、このような低地に位置していることがわかる。

講評：八方尾根から神城断層の全体像をとらえた作品です。人物を入れたので、自分がその場にいるような気分になれます。2枚の組写真として応募されていますが、撮影地点は少し移動しています。同じ地点から撮影して、パソコンソフトで処理すれば、より迫力のあるパノラマ写真となったでしょう。

入賞

「撓曲に映える雪形たち」神城地震断層

宇根　寛・千葉県

撮影場所:長野県白馬村神城飯田　東経：137度51分20秒　北緯：36度39分30秒

作品説明：平成26年長野県北部の地震の地震断層の撓曲で低下して水が溜まった田の水面に白馬連峰の春を告げる雪形たちが映える。白馬岳の象徴の代掻き馬、小蓮華岳の仔馬、乗鞍岳の鶏・・・。

講評地震発生から半年後の2015年5月14日に撮影した作品です。ぱっと見ると撓曲がどこにあるかわかりませんが、もともと平らだった水田が二分されて水が溜まっていることから撓曲の位置がわかります。そろそろ田植えの時期を迎えますが、どうなったことでしょう。尾根すじには八方尾根のスキーゲレンデやジャンプ台も写っています。

入賞

「飯森の地震断層」
渡辺満久　東京都

撮影場所：長野県白馬村飯森東経：137°51′08″　北緯：36°40′13″

作品説明：2015年11月22日に、糸魚川静岡構造線活断層系・神城断層に沿って鉛直方向に最大で約1 m、左横ずれ約1 mの断層変位が現れ、M6.7の長野県北部の地震（長野県神城断層地震）が発生した。本写真は、白馬村大出において出現した地表地震断層を、高さ約5 mのハイポール・カメラで撮影したものである。既存の低断層崖に沿って新たな地表変位が現れたが、畑の地割れの様子から、幅20 m程度にわたって撓曲したことがわかる。ここでは、横ずれ変位は不明瞭である。

講評：地震発生の1週間後の11月29日に撮影した撓曲です。撓曲崖に対する太陽の向きが最適な時間に撮影すると、わずかな地形の高低差もメリハリをつけて写し出すことができますが、そのためには何時間も待たなくてはならないこともあり、待ったけれども曇ってダメということもあります。調査中に撮影する時の悩ましいところです。

入賞

「水面に映える山々と地震断層」神城地震断層

石村大輔•宮城県

撮影場所:長野県北安曇郡白馬村大字神城　東経：137度51分11.94秒北緯：36度39分41.37秒

作品説明：2014年11月22日に発生した長野県北部の地震の地震断層を撮影したものである。写真は断層によって高低差が生まれた田を撮影したものであり、低下側に水がたまり、その水面に山々（白馬岳方向を望む）が写っている様子を映し出している。

講評：宇根さんの作品の1か月前の4月9日、ほぼ同じ場所から撮影した作品ですが、季節の移り変わりの早さに驚きます。水田の冠水部分は宇根さんの作品よりも広く、撓曲の位置もわかりやすいはずです。しかし、右側に不必要な道路が写っているために作品が緩慢になっています。右側を20%トリミングすると撓曲の位置が明瞭になります。

特別賞

「白馬村神城における神城地震断層の出現」神城地震断層

渡辺満久・東京都

撮影場所：長野県北安曇郡白馬村神城　東経：137°50’50”北緯：36°39’42.5”

作品説明：2015年11月22日に、糸魚川静岡構造線活断層系・神城断層に沿って鉛直方向に最大で約1 m、左横ずれ約1 mの断層変位が現れ、M6.7の長野県北部の地震（長野県神城断層地震）が発生した。本写真は、白馬村神城地区において出現した地表地震断層を、高さ約7 mのハイポール・カメラで撮影したものである。本地域では、姫川の最近の浸蝕のため活断層の位置は不明確であったが、既存の活断層トレースの延長上に変位が現れた。水田や道路には撓曲や地割れが生じ、鉛直変位量は数10 cm（1 m未満）であり、数10 cmの左横ずれも確認できた。